

広報

第 103 号

2021年12月

令和3年

のむら

発行人 区長 長井通好
 編集 広報誌編集室
 事務局 TEL.0795-23-4639
 世帯数 2,896世帯(野村町)
 17,190世帯(西脇市)
 人口 7,196人(野村町)
 39,284人(西脇市)
 (11月1日現在)



11月20日、二年振りの野村人教の市外研修。
篠山の障がい者施設「みずほの家」を訪問しました。

人権の世紀を目指して

野村地区人権教育協議会会長 藤原 信子



野村地区の皆様方には日頃人権に対して多大なるご協力を頂いておりますことに大変感謝申し上げます。

人権といえはすぐ頭に浮かぶのが「同和問題」と思われる方が少なからずおられるのではないかと思います。しかし簡単に言えば「人権」とは、人と人がお互いの違いを認めて人間が生まれながらに有する人間らしく幸せに生きていくための欠かすことのできない大切な権利であると言われています。

人権はもともと国家と個人の問題としてとらえられており、その存在すら認められていたものではなく、長い歴史の流れの中で人々が命をかけて多くの試練を乗り越えて獲得したものであると言われています。

21世紀は「人権の世紀」ともいわれていますが未だに生命身体の安全に関わる不当な差別などの人権侵害や、最近では、いじめ児童虐待またスマートフォンなどの普及によるネット上で他人を誹謗中傷したり、個人の名誉やプライバシーを侵害したり悪質な書き込みなどの問題が発生しています。私達は決して他人事とせず自身自身のこととして受け止め、向き合う姿勢が大切だと思います。

西脇市の人権教育は昭和34年に設立され当時の会長は教育長が就任されています。

各地区の人権教育設立は昭和45年から47年とばらつきがあり、各地区で会長が就任されたのは昭和49年からです。野村地区はそれから遅れること14年後の昭和62年に設立され初代会長に嶋東稔さんが就任されています。

現在、人権教育の活動としては西脇市の8月に各地区で実施される「人権文化をすすめる市民運動」推進強調月間講演会を始め11月には「人権教育研究大会」そして野村地区では役員と推進員さん27名で、年間5回の定例研修会や区別人権学習習会、市外研修会など人権に関するいろんな取り組みをしています。

私自身も最初は、人権は難しいものとしてとらえていたましたが、人権にかかわる中で多くの皆さんがいかにか楽しく会合や学習会に参加して頂けるのがこれからの課題であると思っています。人権に関してこれからも努力を重ねて参りますのでどうぞご理解とご協力をよろしくお願ひ申し上げます。



① 野村町公民館の花植え。老人会プラス1。



② 平野口、いつもの美女たち。



③ 野村公園、市役所職員たち。



④ 西脇市駅前の花植え、町内会役員たち。



⑤ 消火器の使用訓練。



⑥ 防災訓練、町役員。



⑦ まだあかんあかん、よそ行き顔するまで待つて!



⑧ みんなで植えれば楽しい。



⑨ 明石商業の強カバッテリー、野村公園に試合に来てました。



⑩ この先頭バッテリーはレフト前ヒットを放った。

ブラーブラーブラー

私は子供の頃から「言葉」が好きで、とうにか敏感で初めての言葉に出会うとすぐ辞書で調べて「へー、こういう意味だったのか」と驚きと喜びを感じ、その習癖はこの年になっても変わらない。一番最近では、スウェーデンのグレタ・トゥーンベリさんの「ブラーブラーブラー」でブラー (Blah) は「たわごと」「つまらない」という言葉で三つ重なる「うーだうーだうー」「議論はやめて早く行動に移せ!」という意味になるらしい。いかにもあの子がしびれを切らして言いそうなことだ。民主主義は議論そのものを大事にし結論は案外常識の範囲で収まり、こんな結論が出るんだったら時間の無駄だったな、ということが多々ある。つまり決断実行が遅れる。これは民主主義の欠陥の一つで、今や民主主義は信仰の域にまで達し誰もその至高の価値を疑われないが決して金銭無欠の制度ではなく常に改善の策だということ肝に銘じておかなきゃいけないな、と私はグレタに教えられた。私はこのスウェーデンの18歳の女の子に満腔の賛意を示します。

東京オリンピック、今昔。

藤原 和義

今年にはコロナの年でありまた選挙の年でありそしてオリンピックの年でもありました。コロナのことは何度も書いたし選挙はいまだ市議選の余韻消えやらずで何か書くと差し障りを生ずるかも知れないので遠慮しておくことにしてオリンピックについて少し書いてみようと思う。今年のオリンピックは無観客のせいだったこともあって盛り上がりには欠けました。政府や大会関係者、マスコミが必死で盛り上げようとしているのを痛々しく感じたのは私だけだろうか？国民の半数が中止が望ましい、と言っているのに挙行したのは、これは日本人の特性だな、とそれはそれで私には面白かった。つまり損切りが出来ない、今までに使った金が無駄になる、一旦始めたことだ、とにかく早くやって早く終わらせろ、という考え。まわりに火が燃え広がっているのに今日しかないんだからといって結婚式を強行するみたいだな、と思いました。出席者はお祝いをするどころか火災が気になって結婚式どころじゃないんだが。とにかくいつ始まっていつ終わったのかもようわからんオリンピックでした。このコロナ感染のさなかのオリンピック開催は無理がありました。

さて私らも含めて一定の年代以上のものにとっては東京オリンピックといえは57年前のそれである。私の中3か高1、15の時です。まだ白黒だったか

一日中テレビにかじりついて応援していた記憶があります。今では見る影もないが私は陸上の100メートルで県大会へ行つたほどのスポーツ少年だったので毎日のオリンピック観戦が楽しくてしょうがなかった。クライマックスはやはりマラソンで、アベベが大会連続で金メダルだったが、日本の円谷幸吉が二番目に競技場に入ってくる

と割れんばかりの大歓声、私も「二着でいい！銀でいい！頑張れ！」と大興奮。ところが三位につけていたイギリスの選手にあとトラック半周くらいのところで追いつかれ抜かれた。恐らく日本中が嘆声に包まれたと思う。ああ！日本人はこの最後の一ふんばりが出来ないんだ、と思い同時にイギリスの選手には、武士の情けというもんがないんか、開催国の選手に花を持たせようという気にはならんのか！と思つたりもした。私のオリンピックの一番の記憶はこれでした。そして4年後、次のメキシコ大会の年の一月に円谷は自殺した。理由は「もう走れなくなつた」というのがそうだった。私は、人間は走れなくなつた、くらいで自死を選んだりするもんだらうか、と訝しんだ。弱い人だったんだな、と私の円谷幸吉に対する評価は一旦そこで終つた。そして何年か後に円谷幸吉の遺書全文を目にする機会があった。私はそれまでこの遺書のことを知らなかったのがある。私はそれを読んで心を動かされた。大いに恥じ、心から円谷に詫言した。川端康成や三島由紀夫が激賞後に日本で一番有名な遺書と言われたもので、

あちこちで引用されているから読んだ人もいるだろうが、今の人は知らないだろうから私も今一度ここで引用させてもらいます。円谷幸吉27歳の遺書です。

父上様 母上様 三日とろろ美味しゅうございました

干し柿、もちも美味しゅうございました
敏雄兄、姉上様、おすし美味しゅうございました

勝美兄姉上様、ぶどう酒、リンゴ美味しゅうございました

巖兄姉上様、しそめし、南ばんづけ美味しゅうございました

喜久造兄姉上様、ぶどう液、養命酒美味しゅうございました

又いつも洗濯ありがとうございます

幸造兄姉上様、往復車に便乗させて戴き有難うございました

モンゴいか美味しゅうございました
正男兄姉上様、お気を煩わして大変申し訳ありませんでした

幸雄君、秀雄君、幹雄君、敏子ちゃん
ひで子ちゃん、良介君、敬久君、みよ子ちゃん

ゆき江ちゃん、光江ちゃん、彰君、芳幸君、恵子ちゃん

幸栄君、裕ちゃん、キーちゃん、正嗣君

立派な人になって下さい

父上様母上様、幸吉は、もうすっかり疲れ切ってしまったて走れません

何卒お許し下さい
気が安まる事なく、御苦労、御心配をお掛け致し申し訳ありません
幸吉は父母上様の側で暮らしようございました

稚拙といつていいような文章である。しかし稚拙であろうが無学であろうが心の奥底から出てきた言葉、文章は人の胸を打つものである。文飾を事としていた作家たちが絶賛するのにもむべなるかな、と思う。政治家や評論家、コメンテーターたち、巧言令色の輩が幅を利かせている世の中だからこそ余計にそう思うのかも知れない。無論、これは私の管見でありませぬ。私はこの遺書を何度読んでも甥や姪の名前が羅列してある箇所へくると涙が止まらない。いつも嗚咽してしまふ。自分の涙で自分の汚れた心が洗われる気がする。今の人はこれを読んでもどう感じるんだろう。一粒の涙もこぼさないような人は日本人の心を忘れてしまった人達であらう、とさえ思う。この甥や姪たちは、ここに書かれてるように立派な人生を送つたに違いない。そう信じたい。

私はまえまえから私の任期中に（あと一号か二号です）円谷幸吉の遺書を載せたかった。今回その機会がありましたので、長々とした前振りを加えて書いてみました。これで広報誌に閉じて思い残すことはありません。





① 10月9日、八坂神社での秋祭りの神事。人数を縮小して。



② 上の神事の折のお祓い。



③ 或る「おとう」の戸渡り。
野村にはまだこんなしきたりが。



④ 祭りはなくてものほりだけは揚げなくっちゃ。



⑤ おばあちゃんと一緒に、文化祭へ。



⑥ 散歩の途上で出会った幸せそうなファミリー。



⑦ よく似た父娘だな。孫はどうか。



⑧ 公民館役員たち。文化祭、御苦労さん。



⑨ 仲よし三人娘。作品を出してるのかな。



⑩ 私の旧宅のお隣さんとバッタリ。



⑪ 「眩しかったんだな。ゴメン、ゴメン」



⑫ 文化祭に出品された作品群（の一部）